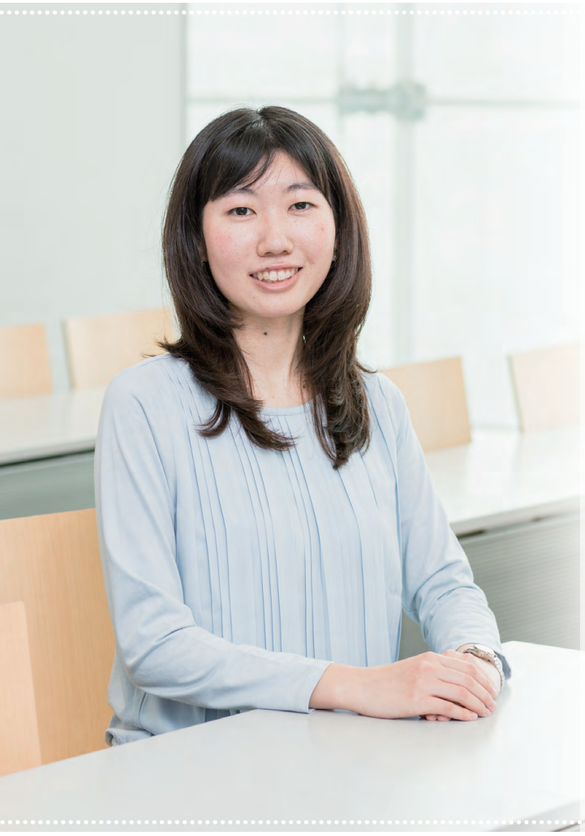
Messages from our Graduates

卒業生からのメッセージ

国際文化学部生の就職は業界全般にわたり、大手・優良企業に幅広く内定しています。国際文化で身につけた高いコミュニケーション能力・情報処理能力と柔軟な思考能力は、広く社会から求められており、一般企業以外にも実に様々な分野で活躍しています。進学・留学する学生も多くいます。

2017年3月卒業生より



MESSAGE

完倉 舞さん　就職先：保土谷化学工業株式会社

天の川が必ずしもmilky wayだとは限らない―オープンキャンパスの模擬授業でこの話を聞いたとき、目から鱗が落ちました。翻訳とは単に辞書にある語を当てはめる作業ではないのです。単語ひとつで文の印象がガラッと変わる言語の魅力に触れ、この学部でもっと続きを学びたくなりました。

入学後、転機となったのはやはりスイスでのSA生活です。日々異文化に触れるうち、言葉とコミュニケーションの関係性に興味を持ちました。外国語が流暢でなくとも交流がうまい人がいる一方、言語の知識は豊富なのに会話が得意でない人もいます。いったい言語文化とは何なのだろう。その答えを探すべく、帰国後は江村ゼミで言語を用いた人間関係調節の理論を学び、熊田ゼミにて文化・世界についてアートを通して考えました。常識を疑い、物事の本質を捉えようとする姿勢はこのときに身につきました。今まで見えていなかった部分に光が当たるような体験の数々は、私の貴重な財産です。

卒業後は人々の生活を陰から支える会社に入りたいと考え、「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワンのスペシャリティ製品を創出し続ける」ことを掲げる化学素材メーカーを就職先に選びました。就職活動を終えるころにはひとつの製品が多くの会社の製品の集合体に見えるようになり、またひとつ良い経験をしたと思っています。

視点を変えれば世界の見え方は一変します。国家、言語、宗教、歴史、芸術、技術…ありとあらゆる観点から世界を分節しようとする国際文化学部で、ぜひ自分の中の「常識」が崩される衝撃と面白さを味わってください。そうして新たな見方をたくさん手に入れ、自らの道を歩む助けにしてくれたらと思います。

国際文化学部 主な内定先（2016年度）

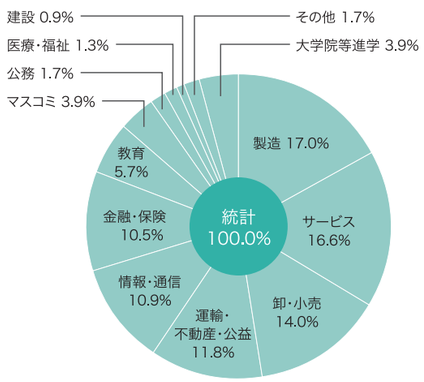
【主な内定先企業】
- 味の素
- マルハニチロ
- サントリー食品インターナショナル
- 資生堂
- YKK
- トヨタ自動車
- 本田技研工業
- 日立製作所
- 日本銀行
- 三菱東京UFJ銀行
- みずほフィナンシャルグループ
- 三井住友銀行
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券
- あいおいニッセイ同和損害保険
- 三井住友海上火災保険
- 明治安田生命
- JR東日本
- 京成電鉄
- 日本通運
- ANA
- JAL
- ソフトバンク
- 楽天
- ヤフー
- 日本経済新聞社
- NHK
- JTBグループ
- HIS
- 日本中央競馬会
- アクセンチュア

【国家公務員】
- 財務省

【地方公務員】
- 市区町村
- 警察官
- 教員

【大学院進学】
- 法政大学大学院
- 東京大学大学院
- 一橋大学大学院
- 首都大学東京大学院

【業種】



社会で活躍するOB・OGより

土居 麟馬さん（2015年3月卒）デザイナー

「世界に衝撃を与える」をモットーに、原宿系アパレルブランドでデザイナーをしています。しかし、専門の勉強をしてきたわけではありません。この学部に入って得たあるポリシーを基に今を生きています。

そのポリシーは、3年生の時に見出しました。「やった人が勝つ」のではないかということです。1年生の時は中国語を勉強し、SA中は上海で自転車旅をし、その後は1年間休学してロンドンに留学しました。自分は何でもできる、そう驕り高ぶっていました。でも実際、自分は何も残せていませんでした。大成している人と自分、その違いは何か？その疑問について、教授に相談したり、頑張っている友人を見たりして、わかりました。答えは単純で、「やったかやっていないか」。自分だってやれると思っていても、言い訳してやっていませんでした。そこからマインドを切り替えて、講義を最前列で受けたり個展をやったりもしました。技術とかは置いといて、やった者勝ちだと思ったからです。

専門の勉強をしたわけではない僕がデザイナーとして現在仕事をできているのは、センスがあるからとか、そういう理由ではありません。やるかやらないかの2択で、「やる」を選択するからです。そして、学部で学んだあらゆることを引き出しながら仕事に生かしています。学部での出会いと学びがなければ、今頃僕は形だけで本質の無い人間だったと思います。

「国際文化学部はアットホーム」です。このことは、僕が入学する前によく耳にしました。そして実際、アットホームでした。教授方は僕たちの想像を遥かに超えるすごい人たちで、学部の職員さんもとても親切。この贅沢な環境が、僕は大好きです。

堀 宏行さん（2003年3月卒）プログラマー

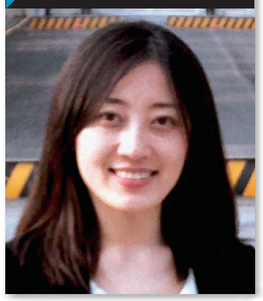
1999年に私は法政大学国際文化学部に1期生として入学しました。当時はまだインターネットが利用時間によって電話代として課金される時代でした。大学三年生のとき、2001年、アメリカで同時多発テロが起きました。当時海外留学（SA）を終え、大学三年生だった私は、国際情勢が変わっているのを背中で感じながら、これから自分は何を仕事にしてどのような人間になるか、必死に模索していました。

もともと私は音楽にのめり込んでおり、文化、芸術表現にかんして、強い興味がありました。学部の授業では、さまざまな文化や、言語、芸術、そしてコンピュータまで多種多様なテーマを扱っており、そんな私にとって非常に刺激的でした。そして、私は将来、自分自身で何かを作りたい、「表現」に関する仕事をしたいと思うようになりました。

現在では、コンピュータを使って新しい体験を作るプログラマーとして働いています。過去にはNHK紅白歌合戦の映像制作、東京駅でのイルミネーション制作、海外の音楽フェスの映像演出など大きな仕事をする機会をいただき、イギリスのD&ADや、フランスのカンヌ・ライオンズなどで様々な賞をいただくこともできました。

学部を卒業した後も、勉強の毎日ですが、今振り返ると、あの4年間が私の出発点であったと思います。これから大学に入学する皆さん、様々なことに挑戦することが許される贅沢な4年間となると思います。敷かれたレールを進む必要はありません。自分で考え、決断する力を養ってください。私も頑張ります。

小山 恵鼓さん（2010年3月卒）日中韓三国協力事務局



私は現在、韓国・ソウルにある「日中韓三国協力事務局（TCS: Trilateral Cooperation Secretariat）」という日中韓三国の友好関係を促進する国際機関で働いています。主に、三国間の青少年、教育、芸術やメディアなど社会・文化分野に関する交流事業の企画・運営をしています。事務局の公用語は、英語で、また日中韓三国の職員が一緒に働いているので、職場では、日中韓英の4言語が飛び交っています。

私は、「将来、国際舞台で活躍したい！」という強い思いを胸に、グローバルな視点を身につけ、様々な国の文化を学べる国際文化学部に入りました。SA先のUC Davisで多民族国家としてのアメリカを肌で感じ、そこで異なる思想や文化の違いに衝撃を受けたことも良い刺激となり、異文化とは何かを改めて考えさせられました。帰国後、国際関係学を研究する今泉ゼミで、今起こっている様々な社会問題を多角な視点で考える力を養い、また自分の関心のある日中関係を歴史の側面から掘り下げて研究できたことも自分の貴重な財産となっています。元々、日中の架け橋になりたいという思いがあったので、在学中に、「日中学生交流会」を立ち上げ、語学クラス、文化紹介プレゼンテーションなど様々な交流活動を通じて、中国留学生と中国に関心のある日本人学生の交流の場を設けました。

私は、国際文化学部で学んだ知識、物事の考え方、蓄積したネットワークを今でも日々の仕事や生活に活かしています。将来、国際舞台で活躍したい学生の皆さんは、自分の夢や目標を実現するためのヒント、必要なスキルや知恵をきっと、この国際文化学部で得られると思います。皆さんのご成功を心から応援しています！